

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 千葉大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(II)))

ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)

【プログラムの目的・養成する人材像】

拠点リーダーとして活躍しうる、グローバルマインド持つ教員と、教育マインドを持つグローバル研究者。

【構想の概要】

実践的教育研究に取り組む院生と最先端科学研究に取り組む院生とのカップリングにより「人材開発型」の教育プログラムの構築を行う。バックグラウンドが異なる研究科院生・学部生のツイン型学生派遣による協働促進カリキュラムを作成することで、ASEAN拠点大学での教育・研究活動による学位取得をも可能とする実践展開型授業プログラムを開発する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 文理融合教育でのアクティブラーニングによる科学授業の開発

本学の理系と教育の学生がユニットを組み、文理融合での授業開発および教員インターンシップを行った。アカデミック・リンク・センター等を活用したアクティブラーニングにより、学生が主体的にASEANの児童・生徒向け科学教材・授業を開発した。

○ グローバルジャパンカリキュラムによる単位認定

ツインクル活動により認定された単位は、では卒業要件としても活用可能である。

○ ツインクルコンソーシアムによる国際科学教育シンポジウム開催

ツインクルコンソーシアム加盟校5カ国、12大学、30高校に加え、協力校であるフィリピンのサンカルロス大学教員も交え、教育に関するシンポジウムを開催した。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈千葉大学学生によるインドネシアでの科学授業〉



〈ASEAN留学生による日本の高校での科学教育活動〉



○ 最先端の科学研究を教材化。そして科学・技術文化を通じた国際交流

○ ASEAN諸国の延べ16,000人の児童生徒が受講

ユニットを組んだ本学学生が、ASEAN連携大学学生との協働を通じて、自らの研究成果を基に授業を開発した。現地では、小・中・高・大の教員と児童、生徒、学生と交流するとともに、学校で英語により科学授業を実施した。

○ NEXTツインクルへ向けたコンソーシアム加盟大学の提案

「国際科学教育シンポジウム」を開催し、千葉大学教員に加えASEAN連携大学・高校教員がそれぞれの立場から当該プログラムと科学教育の未来像について発表をおこない、討議した。この場で各国からさまざまなNEXTツインクルの提案がなされ、支援終了後のプログラム実施に関して具体化が進んだ。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成27年度はトライアルコースを中心に90名を派遣した。タイにおいてテロが発生したため、計画を一部変更し実施した。さらに支援終了後の新体制としてジョイントスーパービジョン体制を一部試行した。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	39	76	84	90	96
学生の受入	0	84	67	59	28

注)H24-H27は実績、H28以降は計画

○ 外国人留学生の受入れ

平成27年度は、59名(78人月)の学生受入れを実施した。ロングコース受け入れでは、大学院のジョイントスーパービジョンによる共同研究成果として国際研究論文の掲載が実現した。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 千葉大学IECオフィス専任スタッフと特任助教による支援体制

ASEAN拠点大学に配置されている千葉大学IECオフィスの専任スタッフと連携し、現地でのサポート体制を強化した。学生派遣期間は、特任助教がASEANにおいて、学生の教育および生活指導を実施し、安全の確保と支援の充実を図った。

○ ツインクルオフィスとInternational Support Desk (ISD)との連携によるツインクル学生交流の全学推進

留学生の生活面でのサポートを充実させるために、ツインクルオフィスとISDが連携し、留学生の受入れに関する学内体制を構築した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ ASEAN大学との新規共同研究、合同プログラム開発の拡大

ASEANと千葉大学の教育系および理系教員による研究発表会が開催され、これに基づく国際共同研究が進行中である。さらに大学院レベルでの合同カリキュラム開発や院生のみならず現職教員のための研修プログラム開発が進んでいる。

○ ASEAN学生の大学院入学

ASEANのツインクル体験者が日本の教育の先進性を認め、千葉大学を始めとする日本の大学院への進学を決めている。

○ シラバスの公開、ホームページ・facebook・twitterによる活動内容についての情報発信と参加学生間の交流促進

本プログラムの修了要件およびシラバスを、印刷物およびホームページで公開しており、透明性を確保している。facebookやtwitterにより活動内容について情報発信している。これらは、本学学生とASEAN連携大学学生の交流の場ともなっている。